

透明効果を使用したデータの印刷トラブルについて

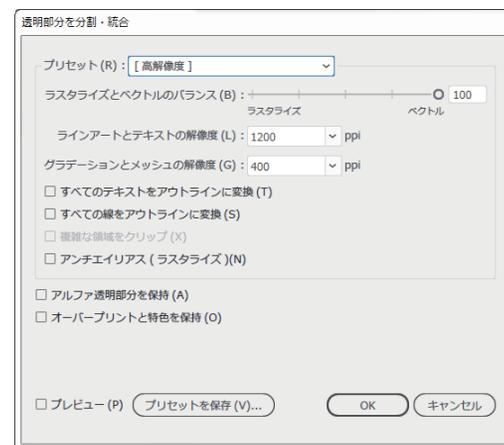
印刷設定で改善しない場合は、Illustrator 上で「透明分割」「ラスタライズ」の機能をお試しください。

●透明分割●

ラスタライズや文字・線のアウトライン化で全体を分割し、透明効果適用時の見え方を保持したまま不透明度 100%の状態に変換します。

作業手順

- 1) 透明を使用しているオブジェクトと、その影響を受けるオブジェクトを全て選択します。
ロックが掛かったままオブジェクトを選択し忘れて分割すると、配置が変わりますのでご注意ください。
基本的に、全体を選択していただくのがいいと思います。
- 2) 「オブジェクト」メニューより、「透明を分割・統合」を選択します
- 3) 「透明部分の分割・統合」ウインドウが表示されます。
 - ・プリセットは「高解像度」を選択
 - ・フォントをアウトライン化していない場合は、「全てのテキストをアウトラインに変換」にチェック
 - ・「オーバープリントと特色の保持」のチェックを外す
- 4) 「プレビュー」のチェックオンで設定の適用後を確認し、問題なければ「OK」で実行します。

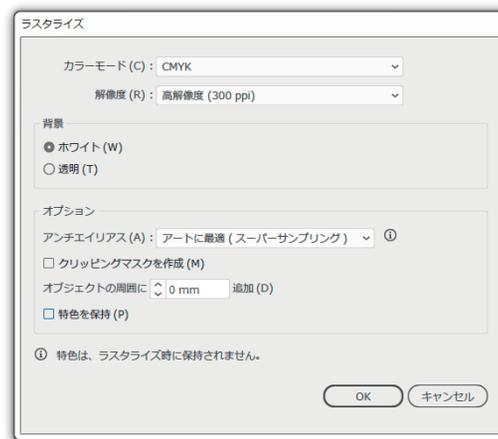


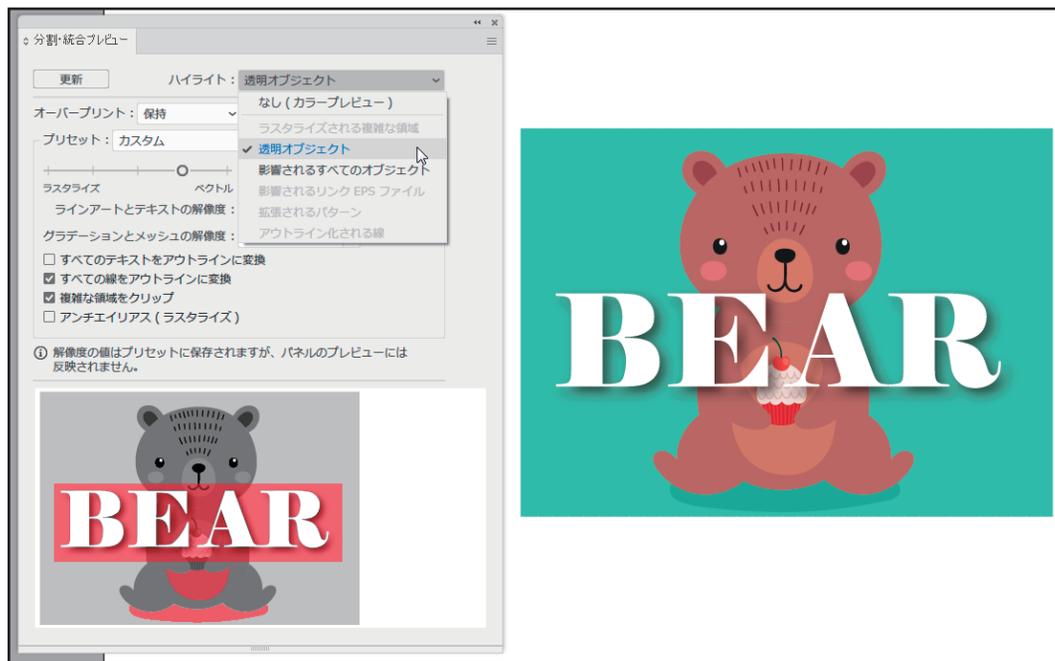
●ラスタライズ●

1 枚のビットマップデータに変換します。

作業手順

- 1) 画像化するオブジェクトを選択します。
ロックがかかっている場合はすべて外した状態で、印刷データ全体を選択してください。
- 2) 「オブジェクト」メニュー内の「ラスタライズ」を選択します。
※効果メニュー内のラスタライズはパスのみをビットマップ化する機能なので、この場合は使用しません
- 3) 「ラスタライズ」ウインドウが表示されます。
 - ・解像度は「高解像度」もしくはデータサイズを考えたうえで任意で設定してください。
 - ・「特色を保持」のチェックを外してください。
- 4) 「OK」で実行します。





TIPS!

透明効果を使用している箇所は、「分割・統合プレビュー」ウインドウから確認できます。ウインドウを開き、[更新] ボタンを押すと、下部のプレビューにファイル内のデータが表示されます。

右側のプルダウンメニューから「透明オブジェクト」を選択すると透明効果を使用しているオブジェクトがプレビュー上に赤で選択されます。

透明効果・ラスタライズの注意点

- ※透明分割やラスタライズは文字のアウトライン化や画像化を行うため、その後に編集ができなくなります。修正して使用する可能性がある場合は、変換前のデータを保存してください。
- ※複雑でオブジェクトやパスが大量にあるデータには適用できない場合があります。
- ※透明分解およびラスタライズは、基本的に印刷する原寸サイズで行います。サイズが大きければその分データの容量も大きくなり、処理に時間がかかります。数mの長尺の場合は 1/10 縮小でも構いませんが、その分、解像度を大きめに設定してください。
- ※『ドキュメントのラスタライズ効果設定』でドキュメントの解像度を設定できます。ドロップシャドウ等のぼかし部分を画像化する際、ドキュメントに設定された解像度が低いと、ギザギザになる（ジャギー）ことがあります。解像度は大きければデータ容量も大きくなりますので、原寸で 150 ~ 200dpi 程度を目安として調整してください。
- ※塗りに特色を使用している場合、予期せぬ結果になることがあるので予めプロセスカラーに変換してください。